



出町ゆかりだより

日本共産党
高槻市議員

発行：日本共産党高槻市議員団 出町ゆかり

連絡先：議員団控室 TEL072-674-7230 FAX072-674-3202

NO.65 2016年11月

決算委員会が開かれました

10月17日から21日まで決算委員会が開かれました。いくつか紹介します。

〈がん検診〉

国はもつと補助を

昨年9月から、がん検診が無料になりました。どのがん検診も受診者が増えて

います。2015年度は、まだ調査中ですが、2014年度はがん検診を受けた人のうち、284人ががんと診断されています。

国はがん検診の目標値を決め、自治体に受診率を上げるようにいつてきます。

がん検診の国の補助は、乳がん・子宮がん・大腸がんには出ていますが、肺がんや胃がんなどの検診補助は出ていません。国はきちんと財政面で補助をするべきだと意見を述べました。

しかも、昨年度のがん検診の高槻市の支出は約6億7千万円、国の補助は800万円しかありません。国はきちんと財政面で補助をするべきだと意見を述べました。

昨年12月の厚生省の「保育士確保対策検討委員会」の資料によれば、労働条件や職場への要求が一番多かったのは、給与・賞与等の改善が59%です。保育士不足の原因は、仕事の内容や責任の重さに、見合わない低い賃金と、厳しい労働条件です。

〈保育士・保育支援センター事業〉

保育士の職場定着を

保育士の仕事復帰を支援することを目的に、保育士・保育支援センターがあります。ベテランの保育士が親身に相談

にのり、その相談者に適した、求人・求職者情報をもとにマッチングを行って

います。就職にいたった件数は、一昨年は目標20人に対し、実績は43人。昨年は目標50人に対し、58人です。せっかく、就職した保育士が、また辞めてしまわないように、保育士の職場環

境を改善することが必要です。しかし、現実には長時間労働やサービス残業、持ち帰り残業などをせざるをえないのが実態です。

昨年12月の厚生省の「保育士確保対策検討委員会」の資料によれば、労働条件や職場への要求が一番多かったのは、給与・賞与等の改善が59%です。保育士不足の原因は、仕事の内容や責任の重さに、見合わない低い賃金と、厳しい労働条件です。

職場定着につながるなど、市としてもアドバイスをするように求めました。

職場定着につながるなど、市としてもアドバイスをするように求めました。

職場定着につながるなど、市としてもアドバイスをするように求めました。

職場定着につながるなど、市としてもアドバイスをするように求めました。

職場定着につながるなど、市としてもアドバイスをするように求めました。

〈土曜学習支援事業〉

中学校でも少人数数学級を

もつと家庭学習が必要だと、土曜日の学習支援の取組みとして始まった事業です。その中心点は塾業者への委託によつて、教師の手が届かない所で教育が行われることです。委託なので、委託業者のアドバイザーに対して教員が指示することは、法律上できません。そして、どのような講座をそれぞれの子どもが受けているのかも、把握できなくなりました。

登録した生徒は全体の2割少しです。教育委員会は、当初一回の講座で上限100人まで受けられると言っていました。実際は平均44人です。平均ですから、もつと少ないところもあります。費用対効果の面でも、問題があったのではと意見を述べました。

アドバイザーが生徒に対して、心を傷つけるような言葉で指導し、子どもが大きなショックを受けたと聞きました。教育委員会として、委託先を厳しく指導するように要望しました。

学力を身につけるために、家庭学習は効果があると思います。国立教育政策研究所の報告では家庭学習の習慣の定着に成功している事例として、「先生が宿題をきちんと確認して、日々手を入れ、目を通して子どもに返却する作業を繰り返す。それが子どもにとって大きな励み

になり、家庭学習の定着を促進する上で鍵になっている。そして、それをより効果的に行う上で、少人数学級の実施が大きな役割を果たしている」ということをあげています。

小学校全学年での少人数学級は大きな効果をあげています。中学校でも少人数学級の実施を強く求めました。



〈視察報告〉

11月1・2日、文教・市民委員会で

神奈川県川崎市、千葉県市川市に視察に行ってきました

川崎市はるひの小学校・はるひの中学校

施設一体型、小中一貫教育の取組みについて

小学生が1078人・中学生が403名、学級数が小・中合わせて53と大きな学校です。とにかく、施設が広く、ふんだんに木を使って建築されています。施設一体型と言われますが日常は基本的に棟ごとに分かれているので、小中学生が一緒にいるという感じはありませんでした。教室と廊下がオープンにされており、空間が広くとっていることや、トイレもそれぞれ子どもの成長や気持ち

を大事にして作られていて、設計面から工夫もされていました。

課題としては、「児童生徒の増加に伴う、学級増で共有施設の活用が限界になってきている。6年生がリーダーとな

る機会が少ない。9年間の人間関係を良くも悪くもひきずってしまふ可能性がある」ということが言

われていました。高槻市でも今後、施設一体型が考えられています。何よ

りも子どもの気持ち、保護者や地域の人の思いを大事にすることが必要です。

市川市・合葬式墓地について

家族の関係の変化もあり、葬儀や墓地にたいする考え方も変わってきています。高槻市でも市民のみな様から合葬式墓地をつくってほしいという要望も出されています。

壺から出して合葬室にて永久に埋蔵されます。年齢が65歳以上の人は、自己利用のために生前に申し込むことができます。

市川市では13年前、合葬式墓地をつくっています。埋蔵方法は20年間は、骨壺に入れた状態で納骨壇に埋蔵し、20年を経過した後は、骨

